

# 木更津君津画像研究会を訪ねて 近隣医療施設メンバーによる手作り画像診断研究会

編集委員 高木 博



研究会会場風景



木更津君津画像研究会の対象  
となる上総地区4市

昨年12月5日にホテルロイヤルヒルズ 八宝苑で開催された第10回木更津君津画像研究会(共催：日本シェーリング、後援：日立メディコ)を訪ねました。今回開催の研究会では第10回記念の特別(教育)講演として顧問の大日方 研 先生による「MDCT(X線CT ROBUSTO)使用経験、診療放射線技師にとって知っておかなければならない基礎知識」が企画されました。午後6時30分の開始時が近づくにつれ、研究会メンバーの方々が次々に集まり、診療放射線技師を中心に約80名の参加者で席が埋まって、研究会が始まりました。

木更津君津画像研究会について代表世話人の袖ヶ浦さつき台病院放射線科 橋本賢一 係長、宮古島レポート報告の上総記念病院放射線科 櫻田 剛 技師、特別講演について顧問の大日方医院 大日方 研 先生に語っていただきました。

## はじめに研究会についてお尋ねしました。

高木：木更津君津画像研究会のメンバーや目的についてお聞かせください。

橋本：この研究会メンバーは上総地区4市(木更津、君津、袖ヶ浦、富津)に勤務している診療放射線技師を中心に集まっています。社会的経営的に、開業医にも『画像診断』が必要不可欠となってきた今日、それに気づいた人たちが単なる装置進歩だけに頼るのではなく、『画像診断』の意義と意味を理解して出てきた問題をひとつひとつ解決していこうとして集ま

## 第10回木更津君津画像研究会プログラム

開会の言葉：袖ヶ浦さつき台病院 放射線科 橋本 賢一 氏

- I. 放射線研修会 in 宮古島レポート  
上総記念病院 放射線科 櫻田 剛 氏
- II. 放射線技師の為の基礎上級講座  
大日方医院 大日方 研 先生
- III. MDCT(ROBUSTO)の臨床経験  
大日方医院 大日方 研 先生

閉会の言葉：袖ヶ浦さつき台病院 放射線科 橋本 賢一 氏

研究会終了後の懇談会も車利用の会員への配慮からノンアルコールで行われ、メンバー間の活発な話し合いやベテランと若手の交流があり、工夫と熱意のあふれる研究会でした。



橋本賢一 代表世話人

り、大日方先生のアドバイスを受けながら勉強を始めました。この集まりが回を重ねて、全国的にも他に類を見ない、地域開業医の医療に根ざした画像研究会『木更津君津画像研究会』となりました。

高木：研究会はどのように始まったのですか。

橋本：平成12年、はぎわら病院で大日方先生を囲むCT撮影・読影についての研究会が始まりました。

高木：会員の発表テーマはCTが中心ですか。

橋本：前は6名の演者からCTの「各部位における正常値」を発表していただきました。装置の設置台数からCTが中心ですが、MRなども取り上げます。

高木：研究会アンケートも実施していますね。

橋本：発表内容について、メンバーが意見・感想を交換する手助けができればと考えています。研究会で取り上げて欲しい話題集めにも役立っています。

発表演題についてお聞きました。

【放射線研修会 in 宮古島レポート】

櫻田：「日常の放射線業務に新しい風を送る」の意図で大日方先生の企画・準備による2泊3日の教育セミナーで、平成15年10月18～20日、宮古島東急リゾートホテルで行われました。

高木：参加された方々はどのような方々でしたか。



櫻田 剛 技師

**画像診断に役立つ考え方**

技師の画像の接し方

技師は、直接診断をするわけではないが

**キーワード**

与えられた所見を確実に認める。  
 眼に直接見えない情報(二次的変化)を考える。  
 写真に対して安定した考え方を持つ。

Outside in Inside out  
 フィールドの認識  
 写真がなにかを訴えるようなものを撮る!

演題スライド



大日方 研 先生

**急性腹症：左側腹部痛**

\* 左尿管結石疑いでDIP & DIP - CT施行

**左尿管破裂**

演題スライド2

**第10回木更津君津画像研究会**

**MDCT(ROBUSTO)の使用経験**

**臨床例 part 1**

大日方医院  
 大日方研  
 2003.12.5.

演題スライド1

**急性腹症：左尿管破裂**

\* MIP VR

演題スライド3

櫻田：千葉県、埼玉県の大日方先生が非常勤をされている施設から8名の放射線技師が参加しました。木更津君津画像研究会からは私一人が参加しました。

高木：セミナーの内容はいかがでしたか。

櫻田：単純X線画像、CT、MR、リスクマネージメントと盛り沢山のメニューでした。画像診断に役立つ考え方、具体的な画像の見方などです。

高木：Outside in Inside out とは。

櫻田：Outside in は外見様態から診断を行う内科医の見方、Inside out は画像情報から診断を行う放射線科医の見方です。技師は両者の間を繋ぐ役割を担います。

#### 【MDCT(ROBUSTO)の臨床経験】

大日方：開業医におけるMDCTの必要性を考えてみました。ROBUSTOが所沢 吉川病院に平成15年7月に導入・設置され使用する機会を得たので、今回は臨床例Part1として紹介しました。

高木：症例を通してMDCTの特徴は。

大日方：従来のHelical CT と異なる大きな利点として

データ取得の高速性

同一息止め下でThin-slice image の大量取得

複数スライス厚の画像の同時取得

があげられます。

MDCTにより長軸方向(体軸方向)の画像情報の改善が進み

ました。わたしはこの画像情報の表示方法として3D、MIP、MPRを1セットと考えています。

高木：1セットの説明をお願いします。

大日方：DIC-CTの胆嚢病変の疑いなど対象の連続性を見る場合には3DやMIPが優れ、内部構造にはMPRです。外科医の手術を念頭に置いた3D提供など、何を画像化するのか依頼医師とのコミュニケーションが大切です。

高木：データ取得の高速性について具体例をお願いします。

大日方：MDCTの高速撮影を実感する例として“大動脈・腹腔動脈・上腸間膜動脈の造影CT値が全て350HU前後で、なおかつ全てのスライスイメージで認められている”画像から速さを実感します。これは3D作成において大きな利点です。

高木：造影剤使用のタイミングがMDCTでは難しいと言われますが。

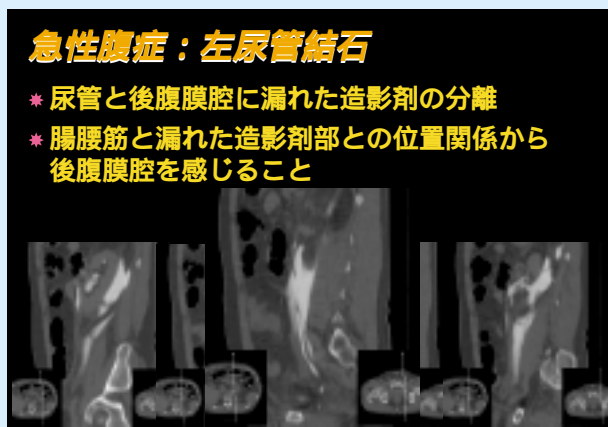
大日方：MDCTでは造影剤の入れ方が重要で、技師の役割が重要です。吉川病院ROBUSTOでは造影のタイミングを逃がすリスクの少ない“遅めのタイミングで早く撮る”を選択しています。ROBUSTOのピッチ7は広範囲を短時間に早く撮るのに適します。

高木：ありがとうございました。

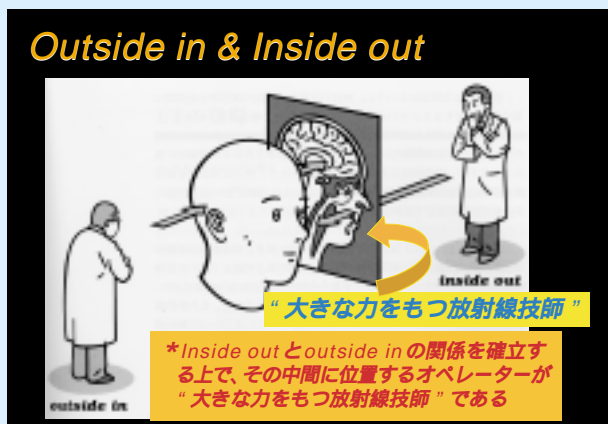
「知識よりも意識」という大日方先生のスローガンで第10回を迎えた木更津君津画像研究会に参加させていただき、先生の強い意志とメンバーの方々の熱意を頼もしく感じました。

「木更津君津画像研究会」の今後の発展に期待してレポートを結びます。

ROBUSTOは株式会社日立メディコの登録商標です。



演題スライド4



演題スライド5

(多田 信平 監修「MRI免許皆伝」日本医事新報社より引用)



研究会世話人の方々



大日方 研 先生(中央)、営業企画本部 伊藤課長(右)、筆者(左)